2018年度JICA課題別研修「アフリカ地域稲作振興のため中核的農学研究者育成」の実施

6月26日～8月3日に、JICA中部とJISNAS（農学知的支援ネットワーク）団体会員の弘前大学、東京農工大学、明治大学、新潟大学、島根大学、宮崎大学、鹿児島大学の協力により標記研修を実施しました。本研修も今年から第3フェーズに入りました。今回は、ブルンジ、エチオピア、ナイジェリア、シエラレオネ、スーダン、ウガンダ、ザンビアからの7名が稲作の安定化や増収などのための課題解決に向けた研究アプローチについて研修しました。研修前半のコア研修では、今年は新たなプログラムとして安城市の愛知県農業総合試験場作物研究部水田利用研究室を訪問し、イネの原種種子生産について学びました。後半には、研修員は各自の専門性に合わせて別々の大学で個別研修を受け、研究手法の習得に励みました。本研修を通じてブラッシュアップした各自のリサーチプランが、本国での稲作研究に活かされることを期待しています。　（江原　宏）

JICA中部での修了式

オランダ・ワーゲニンゲン大学研究センター（WUR）とJISNASとの合同セッションInclusive Value Chain Developmentを開催

WUR創立100周年を記念した国際シンポジウムSDG-Conference 'Towards Zero Hunger: Partnerships for Impact'において、8月31日にサイドイベントとして、Inclusive Value Chain Developmentのテーマの下、Promoting added-value production by smallholder farmers through the development of robust market-driven supply chains in an industry-community-academia collaborationと題してJISNAS-WUR合同セッションを開催しました。東京農業大学、国際農林水産業研究センター、JICA、三重大学、九州大学、名古屋大学がチェアー、モデレーター、スピーカー、パネリストを派遣、農業・食品産業技術総合研究機構の在蘭リエゾンオフィス、WURとともにアジア、アフリカにおける市場動向を重視した農業生産振興などの最新の取り組みを紹介し、国際機関、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、ラテンアメリカからの参加者と包括的バリューチェーン開発に関して議論しました。　（江原　宏）

ワーゲニンゲンでの合同セッションの様子

全国農学系学部長会議においてJISNASアンケート調査の結果を報告

近年、途上国や新興国を含めた世界の社会・経済でのグローバル化が進展し、大学の国際交流に求められるニーズが多様化・複雑化していることを背景として、本年9月にJISNASでは、全国農学系学部長会議の全会員大学を対象に、「農学における国際共同研究の現状と将来の展開に関するアンケート－農学知的支援ネットワーク（JISNAS）の活用」を実施しました。この度、結果が集計できましたので、10月18・19日に函館で開催された第139回全国農学系学部長会議において報告しました。今回のアンケートは、農国センターの設置から20年、JISNASの設立、事務局の担当をはじめてから10年となるこの折りに、全国の大学における農学分野での国際教育研究に対する関心・要望・問題意識を把握するために行ったものですが、これから次の10年に向けて、農学国際教育における協力の推進、国内外の人材育成、国際共同研究等の活動における質的な向上を図るため、今後の検討に活用させいただきます。　（江原　宏）